

部局名	上下水道局	所属名	維持管理課	所属長名	氏家 稔	電 話	482-0924
-----	-------	-----	-------	------	------	-----	----------

1. 事務事業の位置付け・概要（P L A N）

コード	9926		事務事業名称	漏水調査事業						短縮コード	経常	9926	臨時	
予算区分	会計	91	水道事業会計_収益的支出	款	01	水道事業費用	項	01	営業費用	目	02	配水及び給水費		
区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 ☐ その他				根拠法令等									
事業概要（事務事業を開始したきっかけを含めて記入）														
平成2年度から、漏水に起因する無効水量の減少と二次災害の防止を図るため。														
事務事業を取り巻く状況の変化 又、今後の変化の推測				総 合 計 画 の 施 策 体 系	5本の柱（章）	04	快適生活空間都市をめざして							
漏水の早期発見・修繕により、漏水の再発防止、水の有効利用、二次災害防止等が図られている。今後、改良工事の進捗状況に合わせて、調査時期や調査区域の設定を見直す。具体的には「5年周期で全市を網羅する」設定から「漏水の多い地域を優先する」へと移行していく。					大項目（節）	04	水道							
					中 項 目	01	水道							
					小項目（施策）	03	災害・環境対策の強化							
					細 項 目	02	有効率の向上							
				実 施 計 画 の 計 画 事 業										
計画事業の位置付けの有無				☐	計 画 事 業 期 間		平成18年4月 ～ 平成19年3月		計 画 事 業 費		千円			

2. 事務事業の目的・指標・実績（D O）

対象 （誰を何を対象にしているのか）	給・配水管等の水道施設							
手段 （具体的な事務事業のやり方、手順、詳細）	※平成18年度に実際に行ったこと： 八千代台（西・北）及び大和田新田地区において120 k mの漏水調査を実施した。							
	※平成19年度に計画していること： 八千代台（東・南）及び大和田及び勝田台地区において120 k mの漏水調査を実施する。							
意図 （何を狙っているのか）	給・配水管及び付属施設の地下漏水を早期に発見し修理することで無効水量の減少を図り、有効(有収)率の向上及び漏水に起因する二次災害等の防止を図る。							
結果 （どんな結果に結びつけるのか）	有効（有収）率の向上と水の有効利用が図れる。同時に、通常業務の中では手が届かない宅内漏水も発見でき利用者の利益を守ることができる。							
区 分				単位	1 7 年度	1 8 年度		1 9 年度
					実績	計画	実績	計画
対象指標	指標 1	配水管総延長	k m	610. 1	612. 5	614. 1	616. 5	
	指標 2							
	指標 3							
活動指標	指標 1	漏水調査を実施した管路長	k m	120	120	120	120	
	指標 2							
	指標 3							
成果指標	指標 1	漏水発生件数	件	67	40	35	50	
	指標 2							
	指標 3							
上位成果指標	指標 1							
	指標 2							
	指標 3							

コード	9926	事務事業名称	漏水調査事業				所属名	維持管理課
今後の方向性	⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。	☐ 改革・改善して継続			一定サイクルで管路全体の漏水調査を行い、地下漏水を早期に発見・修繕することによって水の有効利用が図られる。現状維持で進めたい。			
		☐ 手法プロセスの改革・改善						
		☐ 事業規模の拡大・縮小						
		☐ 統合・役割見直し						
	☐ その他							
	☐ 廃止							
☐ 休止								
☒ 現状のまま継続								
⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。			経 費			競争入札により経費は低く抑えられている。また、調査における仕様は必要最低限の仕様書であり、これ以上の見直しはできない。		
			削 減	不 変	増 加			
	成 果	向 上	☐	☐	☐			
		不 変	☐	☒	☐			
		低 下	☐	☐	☐			

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見） ※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など									
* 年間の調査延長が限られていることや漏水多発地域を優先せざるを得ないことから、地域によっては5～7年周期になることもある。また、調査内容が 深夜行動や敷地内立ち入り等を伴う。さらに、この時期に合わせて水道器材に関わる訪問販売なども出回る。こうした事情等から、水道利用者から の問い合わせが後を絶たない。自治会等を通じて利用者の理解と協力を得るためのPR活動を行っているが、さらに工夫と強化が必要である。 * 調査結果を有効利用（次年度配水管改良工事とリンク）している。									

所属長コメント	本事業が水の有効利用や利用者の負担軽減につながっている。また、調査結果が老朽管更新事業の計画策定の指標にもなっている。以上の点から現状維持で進めたい。								
評価調整委員会意見	☐ 改革改善して継続			担当課の評価のとおり、現状のまま継続とする。					
	☐ 手法プロセスの改革・改善								
	☐ 事業規模の拡大・縮小								
	☐ 統合・役割見直し								
☐ その他									
☐ 廃止									
☐ 休止									
☒ 現状のまま継続									